

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地														
国際トラベル・ホテル・ブライダル専門学校		平成5年3月25日	古川 博文	〒260-0021 千葉県千葉市中央区新宿2-11-12 (電話) 043-242-0466														
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地														
学校法人中村学園		昭和41年8月15日	中村 洋子	〒260-0021 千葉県千葉市中央区新宿2-14-13 (電話) 043-242-0467														
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士													
商業実務	商業実務専門課程	テーマパーク科テーマパークコース		平成30年2月28日	-													
学科の目的	企業と連携して行う授業科目を取り入れ、業界全般の専門知識、技術力、ホスピタリティ・マインドを身に付ける教育課程とし、即戦力として活躍する意思と能力を持った人材を育成し、多様化し続ける業界に対応できる逞しい人材を輩出することを目的とする。																	
認定年月日	平成26年3月31日																	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験												
2年	昼夜	1743	362	1261	120	0												
	昼間	時間																
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数													
40人	33人	0人	23人の内数2人	89人の内数25人	112人の内数28人													
学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日		成績評価	■成績表：有 ■成績評価の基準・方法 各学年、各学期毎に評価試験・出席率・平常点に基づいて行う。成績の評定は、A=優・B=良・C=可・D=不可・Q=再認定で行い、A～C・Q評価を「認定」、D評価を「不認定」とする。4段階評価が困難な場合には、R評価を「認定」、D評価を「不認定」とする。不認定となった科目で再評価されたものはQ評価とする。														
長期休み	■夏期：8月1日～8月31日 ■冬期：12月26日～1月5日 ■春期：3月21日～4月10日		卒業・進級条件	1.【卒業】各科目で規定する卒業基準単位を取得する。 【進級】各学期における各科目規定単位を全て取得する。 2. 所定の期日までに学費を納入する。														
学修支援等	■クラス担任制：有 ■個別相談・指導等の対応 各期においてクラス担任による面談を実施。その他、随時必要に応じて個人面談及び保護者面談も行う。学生状況は全職員に学生システム及び会議内で共有され、各室連携し、対応する。		課外活動	■課外活動の種類 ・生徒会組織(SAM)によるイベント立案、実行 ・小学生職業体験会(キッズハッピープロジェクト)のサポートスタッフ ・スポーツ大会実行委員 ・学園祭実行委員 ■サークル活動：有														
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和4年度卒業生) テーマパーク業界、ホテル業界等 ■就職指導内容 専任の就職担当による徹底した個別指導を通じて、各学生の希望や特性に合った企業紹介から進路決定に至るまで一貫指導を行う。就職活動を成功に導くための各種プログラム及び教育課程を編成している。 ■卒業生数 15 人 ■就職希望者数 15 人 ■就職者数 14 人 ■就職率 : 93.3 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 93.3 % ■その他 なし (令和5年度卒業生に関する令和6年5月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和5年度卒業生に関する令和6年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>手話技能検定</td> <td>③</td> <td>25人</td> <td>19人</td> </tr> <tr> <td>サービス介助士</td> <td>③</td> <td>17人</td> <td>16人</td> </tr> </tbody> </table> ■自由記述欄 なし			資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	手話技能検定	③	25人	19人	サービス介助士	③	17人	16人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数															
手話技能検定	③	25人	19人															
サービス介助士	③	17人	16人															
中途退学の現状	■中途退学者 1名 ■中退率 3.0 % 令和5年4月1日時点において、在学者33名(令和5年4月1日入学者を含む) 令和6年3月31日時点において、在学者32名(令和6年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 ・精神的理由で退学1名 ■中退防止・中退者支援のための取組 学生面談において、学生状況の把握を行い早期解決に向けた取り組みを行う。保護者面談等を実施し、全教職員で学生システム及び会議内で共有し、各室連携して対応に当たる。なお、経済的理由の場合には、各学期において夜間部への転科を認めており、クラス不適合等の場合は、夜間部を含めた転科(コース)を認める場合がある。また、学生相談のためのスクールカウンセラーを配置し、学外においてカウンセリングの場を提供している。																	
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度：有 ・ホスピタリティ特待生制度：入学時ならびに2年進級時に能力・人格ともに優れており、他の模範となる学生を特待生として選出。授業料の一部を免除する制度。 ■専門実践教育訓練給付：非給付対象																	
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価：無																	
当該学科のホームページURL	<a href="https://www.ithb.ac.jp/course/themepark/">https://www.ithb.ac.jp/course/themepark/</a>																	

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教育の質保証と向上を図るため、関連する業界の企業や団体等から求められるニーズや意見を集約し、有益なものについては、次年度の教育課程編成に反映させる。また授業内容の改善、工夫を随時していくことを基本方針とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け  
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

校長または副校長が招集し年2回以上開催する。各学科の当年及び次年以降の教育課程について、委員会において科目編成や授業工夫・改善に関する意見を集約し、改めてカリキュラム会議において教育課程(案)を作成、職員会議・統括会議を経て校長または副校長が最終決定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年6月30日現在

名前	所属	任期	種別
武笠 克彦	一般社団法人日本旅行業協会 関東支部千葉県地区委員会	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	①
今関 真治	千葉都市モノレール株式会社	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	③
遠藤 陽平	東武鉄道株式会社	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	③
酒井 大之	T-LIFEパートナーズ株式会社	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	③
折原 恭子	イオンモールキッズドリーム合同会社	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	③
石井 光彦	株式会社旅行綜研	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	③
鈴木 繁	株式会社ジャッツ 成田空港事務所	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	③
長森 克子	一般財団法人成田空港振興協会	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	③
松井 哲至	株式会社エコパートナーズ	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	③
風間 昭彦	ホテルニューオータニ幕張	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	③
山下 裕乃	株式会社オータパブリケーションズ	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	③
佐々木 貴夫	公益社団法人日本ブライダル文化振興協会	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	②
大塚 達也	ホンダモビリティランド株式会社	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	③
室田 伸一	一般社団法人 地域未来企画	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	③
角野 真	株式会社C・B・H	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	③

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(前期・後期各1回)

(開催日時(実績))

【令和5年度】

第1回: 令和5年8月25日(金) 13:00-15:30

第2回: 令和6年3月4日(月) 13:00-15:30

【令和6年度】

第1回: 令和6年8月25日(金) 13:00-15:30 予定

第2回: 令和7年2月17日(月) 13:00-15:30 予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

学生のうちから企業の制度などを知っておくべきとの意見や、給料面だけでなく働く環境を重視している傾向があることから、企業の各種制度や働き方の意識付けを観光業界研究の授業等で取り入れることを検討。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

観光業界の動向やニーズを捉え、企業と教育内容、指導方法等連携し、職業に必要な実務及び専門知識を育成するための演習及び実技等を行うことで業界で活躍する人材育成をすることを基本方針とする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

■演習・実技

教員(企業)は観光業界に必要とされる科目について実務に対する最新の知識を持ち、演習及び実技等における教育内容、指導方法、評価方法、課題・教材について学校と連携し、授業の運営を行い、成績評価・単位認定を行う。更なる工夫等を行えるよう修了後も連携し、改善を行っていく。

■実習

受け入れ先企業と実習実施前に打合せを行い、実習内容の詳細を決定、協定書等の取り交わし、学修成果の指標等について定める。実習期間中についても、随時各企業と連絡を取り合い、巡回し、学生の実習状況を直接確認するとともに、企業担当者と情報交換を行う。実習修了時には、企業担当者による評価を踏まえ、担当教員が成績評価・単位認定を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
企業実習	テーマパーク企業に出向き、接客や販売をはじめとする業務を実際の体験を通して理解し、そこで習得した知識や技術を将来に活かす。	志摩スペイン村株式会社他

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教職員は、授業・学生に対する指導力向上、及び業界動向を捉え専攻分野の専門教育を深化させ、実務に関する知識修得及び技能向上を図る。規則に則り、業務経験や能力に応じた適切な研修を計画的に受講する。また、業界に必要とされる各種検定取得等も推進する。受講後は、定められた報告書とともに学内においてフィードバックを行い、今後の学生指導・授業運営・教育課程編成に活用することを基本方針とする。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「テーマパーク業界に関するマネージメント研修」

(連携企業等: レジャーコンダクター)

期間: 令和5年9月4日 対象: テーマパーク科教員

内容: テーマパークの健全な経営方法や仕組みを理解し今後のテーマパーク業界における授業に活かす。

連携内容: 当該企業は、テーマパークに関する研修の主催やセミナーを行っており、教員が研修を受講することで連携している。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「コミュニケーション研修～心を伝える話し方～」

(連携企業等: ひびき企画)

期間: 令和5年8月24日(予定) 対象: 全教職員

内容: 授業等で活用できる発声方法、伝え方を学び、教育活動へ活かす。

連携内容: 当該企業は、発声方法等の研修を多く実施しており、教員が研修を受講することで連携している。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「テーマパーク業界に関するマネージメント研修」

(連携企業等: イオンキッズドリーム合同会社)

期間: 令和6年6月17日 対象: テーマパーク科教員

内容: テーマパーク現役社員による講話、及び接客の実技研修を受講することで授業に活かす。

連携内容: 当該企業は、当校でも授業連携しており、教員が研修を受講することで連携している。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「納得と信頼を生む話し方」

(連携企業等: Schoo)

期間: 令和6年8月(予定) 対象: 全教職員

内容: 授業等で活用できる話し方・伝え方を学び、授業等へ活かす。

連携内容: 当該企業は、研修を数多く実施しており、教員が研修を受講することで連携している。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

「専修学校における学校評価ガイドライン」に則り、学校が評価項目を設定し、自己評価を行う。自己評価結果は、地域や企業等委員で構成された学校関係者評価委員会において客観的な評価を受ける。全ての評価結果は専攻分野の教育活動及びその他学校運営の改善や工夫に活かしていく。また、自己評価、学校関係者評価ならびに改善方策等はホームページに公開し、広く社会へ公表することを基本方針とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目標 - 理念・目的・育成人材像、特色のある教育活動、将来構想
(2) 学校運営	(2) 学校運営 - 運営方針、事業計画、運営組織、コンプライアンス、 情報公開、情報システム
(3) 教育活動	(3) 教育活動 - 目標の設定、教育方法・評価等、成績評価・単位認定等、 免許・資格取得の指導体制、教員・組織
(4) 学修成果	(4) 学修成果 - 就職率、免許・資格の取得率、卒業生・在校生の社会的評価 評価目標
(5) 学生支援	(5) 学生支援 - 就職等進路、中途退学への対応、学生相談、学生生活、 保護者との連携、卒業生・社会人、高校との連携
(6) 教育環境	(6) 教育環境 - 施設・設備等、学外実習・インターンシップ等、防災・安全管理
(7) 学生の受け入れ募集	(7) 学生の受け入れ募集 - 学生募集活動、入学選考、学納金
(8) 財務	(8) 財務 - 財務基盤、予算・収支計画、監査、財務情報の公開
(9) 法令等の遵守	(9) 法令等の遵守 - 法令基準等の遵守、個人情報保護、学校評価
(10) 社会貢献・地域貢献	(10) 社会貢献・地域貢献 - 社会貢献・地域貢献、ボランティア
(11) 国際交流	(11) 国際交流 - 留学生の受け入れ、留学生指導

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

昨今の観光業界の状況変化の中、時代に合わせたコース運営を検討するご意見をいただき、今後検討していくこととなった。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和6年6月30日現在

名前	所属	任期	種別
原田 正隆	千葉市民活動支援センター	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	地域
小亀 さおり	元公務員	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	地域
今関 真治	千葉都市モノレール株式会社	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	企業等委員
横山 隆	株式会社千葉京成ホテル	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	企業等委員
小西 有	ANAスカイビルサービス株式会社	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	企業等委員
岩崎 正佳	株式会社両総観光	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

【ホームページ】・広報誌等の刊行物・その他( )

URL : <https://www.ithb.ac.jp/information/>

情報公開ページ 9学校評価

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に則り、社会全体への情報提供し、説明責任を遂行する。また、企業との連携に資するため、特色ある教育活動及び学校運営に関する正確かつ適切な情報を積極的に提供する。情報やデータについては、収集・整理・更新を組織的に行い、継続的に質の保証・向上に向けて情報提供へ取り組むことを基本方針とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学園情報、学校基本情報、経営方針、危機管理への取組状況
(2) 各学科等の教育	在籍数・卒業後の進路、就職先企業、入学者の受け入れ方針 学科・コースの教育、目指す資格・検定一覧、資格レポート 主要資格・検定合格率一覧、カリキュラム(シラバス)
(3) 教職員	教職員(教職員数、組織図、教員の専門性に関する情報) 教職員研修
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリアプラン、就職支援、企業実習
(5) 様々な教育活動・教育環境	クラブ・サークル、スクールイベント
(6) 学生の生活支援	学生サポート
(7) 学生納付金・修学支援	学納金、学費サポート
(8) 学校の財務	財務状況
(9) 学校評価	自己評価、学校関係者評価、教育課程編成委員会議事録 学校関係者評価委員会議事録
(10) 国際連携の状況	留学生ホームページ、海外交流、留学制度
(11) その他	学則

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

【ホームページ】・広報誌等の刊行物・その他( )

URL : <https://www.ithb.ac.jp/information/>

情報公開ページ 9学校評価

授業科目等の概要

(商業実務専門課程テーマパーク科テーマパークコース) 令和6年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ホスピタリティⅠ・Ⅱ	様々なワークを通して「相手の立場に立って考え、相手を慮る心」であるホスピタリティマインドを育成し、あらゆるタイプの人とも上手に交流できるようになる人材を育成する。	1通	30	2	○			○			○	
○			キャリアデザインⅠ・Ⅱ	自己分析や、社会の中での自分の強みや他者理解を学び、就職活動だけではなく、学生生活や対人関係、将来の仕事などに必要な姿勢を養い、社会に必要とされる人材を育成する。	1通	105	7	○			○		○		
○			ビジネスコミュニケーションⅠ・Ⅱ	社会人として、必要なビジネスマナーを理解・実行できることを目標に、挨拶や言葉遣い、接遇を学ぶ。	1前2後	41	2	○			○			○	
○			パソコンⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	パソコン検定3級以上の入力速度アップを目標とし、ワード・エクセルを含めたパソコン操作の基本を、例題作成を通して習得する。	1通2通	82	4	○			○			○	
○			Let's Speak English Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	異なる国や文化の人々と積極的なコミュニケーションをとるために、シンプルなキーセンテンスを応用して使えるような会話・リスニング・アクティビティを練習する。	1通2通	82	4	○			○		○	△	
○			企業実習	企業実習にて、テーマパーク業界及び接客業における各業種、飲食、遊戯、販売、園内誘導などをさせていただく。	1後	120	4			○		○		○	○
○			テーマパーク接客英語	子供向けのテーマパークや職業体験もテーマパークを念頭に、子供に対する英語表現やさまざまな職業を体験する際に必要な英会話力を身につける。	1前	30	2	○			○			○	
○			テーマパーク接客手話Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	ユニバーサルサービスとして接客における手話を身に着ける。最終的に3級の単語などを学習し、聴覚障がいをお持ちのお客様に対して手話でのコミュニケーションがとれるようにする。	1通2通	112	6	○			○			○	
○			ダンス演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	テーマパークでの接客実技、レクリエーションダンス指導法、ストレッチ運動、リズム運動などの基礎を学び体得する。	1通2通	112	6	○			○			○	
○			パークオペレーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	ゲストの前に出た際にその場の雰囲気や状況を壊すことなくしっかりと対応し、ゲストの思いをくみ取ることができるキャスト、クルー、スタッフを目指す。	1通2通	164	8	○			○		○		
○			バルーンアートⅠ・Ⅱ	マジックバルーンの基本的な作品の制作を行い、お客さまにバルーンを楽しませながら作り、渡すスキルを学ぶ。	1通	60	4	○			○			○	
○			エンターテイメント実務Ⅰ・Ⅱ	エンターテイメントに触れる授業。様々な体験型授業を通してパフォーマンスの特性を学ぶ。	1通	30	2	○			○			○	

授業科目等の概要

(商業実務専門課程テーマパーク科テーマパークコース) 令和6年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
○			カラーコーディネートⅠ・Ⅱ	カラーコーディネート基礎を学び舞台演出やバルーン配色などテーマパークで必要とされる色彩の知識を深める。また、講座ではカラーカードを使用した配色レッスンなどを交えた実践的な表現力と、現場で求められるイメージ演出力を養う。	1 通	30	2	○			○			○		
○			テーマパーク研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	テーマパーク業界の形態やサービス内容の把握等、業界の基本知識を学ぶ。また、イベントの立案、実施企画力や対応力を養う。	1 通 2 通	82	4	○			○			○		
○			サービス接遇・社会人教養	テーマパークで勤務するスタッフにはそれぞれのテーマパークを『演じる力』と社会人としての『教養』が必要となるため、前半では一般知識・柔軟性等幅広い技能や知識を中心に学んでいき、後半ではクレーム対応などテーマパークで起こりうる対応演習・ケーススタディー等を交え行う。	1 前	15	1	○			○			○		
○			ゲストサービスⅠ・Ⅱ	しっかりと声を出し、滑舌を良くする。発声トレーニングを学習し、感じの良い話し方を身につける。一般常識を学び、更には心地よいサービスの提供を考える。	1 通	60	4	○			○				○	
○			SNSマーケティングⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	実際にSNSアカウントを運用して集客に結び付くような授業 動画作成・写真撮影等の技術向上	1 通 2 通	82	4	○			○			○		
○			観光業界ガイド	実際の就職活動を見据えて観光業界の全体像を把握し、実際の企業求人を確認しながら仕事や会社の種類等の幅広い業界知識を学ぶ。	1 前	15	1	○			○			○		
○			身だしなみ講座	就職活動時に必要最低限身につけておくべき身だしなみ及び社会人としても好印象を与える身だしなみを身につける。	1 前	15	1	○			○			○		
○			Theme Park EnglishⅠ・Ⅱ・Ⅲ	テーマパークで働く上で必要となる基本的な英単語・英語表現を学び、グループワークやロールプレイにより実践的な英会話の習得を目指す。	1 後 2 通	82	4	○			○				○	
○			フードオペレーションⅠ・Ⅱ	テーマパーク飲食施設で勤務した際の和洋中の基本知識・最低限の技術(レジ操作・トレー・皿持ち・備品の名称)を習得することを目標に授業を進める。	1 後 ・ 2 後	56	3	○			○			○		
○			イベント演出Ⅰ・Ⅱ	感動的且つ効果的な演出方法や、心地よく過ごせる音の空間を提供する技術を学び、シナリオに合わせた音楽のコーディネートする技術を学ぶ。 写真撮影の技術のもと、アルバム編集やリーフレット作成の技術を身につけ、写真撮影の技術を応用したデザインを学ぶ。	2 通	52	2	○			○				○	
○			エンターテイメントメイクⅠ・Ⅱ	エンターテイナーとしてのパフォーマンスに欠かせない様々なメイクアップ技術を習得し、目的やシーンに応じて使い分けられるようにする。	2 通	52	2	○			○				○	
○			電話対応ベーシック	発声・発音、電話の受け方・かけ方、定型的な言い回しや伝言メモの書き方等電話対応の基礎を固め、実践ですぐに役に立つ社会人として最低限に必要な電話対応を学ぶ。	2 前	26	1	○			○				○	
○			テーマパークマネジメント	テーマパークを運営する側からの視点で考え、集客方法等、自ら考え、経営側の考え方を養う。	2 前	26	1	○			○				○	
○			イベントプロモーションⅠ・Ⅱ	2月に行われる、2年間の学生生活成果発表のための計画、準備、練習、運営を学生主体で行います。 そのために必要な、基礎的な発声や演技の訓練も併せて行います	2 通	104	4	○			○				○	
	○		中国語Ⅰ・Ⅱ	中国語圏内のお客様に対してテーマパークで初歩的な接客対応ができるように仕事で使えるフレーズの習得を目指す。	2 通	52	2	○			○				○	
	○		韓国語Ⅰ・Ⅱ	韓国語圏内のお客様に対してテーマパークで初歩的な接客対応ができるように仕事で使えるフレーズの習得を目指す。	2 通	52	2	○			○				○	
○			海外観光事情	世界の地理を学習し、国内のテーマパークが舞台としている海外の都市、建物、自然景観などを学ぶ。さらに代表的な世界遺産、宗教の基礎なども学び教養も深める。	2 後	26	2	○			○				○	
合計					29科目						1743単位時間(88単位)					

授業科目等の概要

(商業実務専門課程テーマパーク科テーマパークコース) 令和6年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
1. 卒業基準単位の取得、2. 定められた期日までに学費を納入		1 学年の学期区分	2期
		1 学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。